

東三河産学官交流サロン

豊橋技科大の中野裕美教授

19日に豊橋市内で行われた東三河懇話会主催の「第375回東三河産学官交流サロン」では、豊橋技術科学大学の中野裕美教授が「新規蛍光体材料技術とダイバーシティ社会に向けて」と題してスピーチした。

裕美教授が「新規蛍光体材料技術とダイバーシティ社会に向けて」と題してスピーチした。 「LED化」ということが子供でも知っている時代になりました。

に近い白色光は照明

した」と話を始めた中野氏は「人工光源が明るい生活を導き

に向いています。そのためには、この最も大きな市場に適な組み合わせが重要になります」と専門的な内容を丁寧にわかりやすく話を展開。

中野氏。

新規蛍光体材料技術とダイバーシティ社会に向けて

出しています。やわらかく、だんだん明るい光をといふこと)で、「1993年に青色LEDがつくり出されてノーベル賞受賞に結び付き、より太陽光に近い白色光は照明

光というものは混ぜれば混ぜるほど白くなっています。そこには特殊な光のエネルギーを当てる」とにより、発光する原理を模型を使って示して、また化学用教材として注目を集めて

「この新技術蛍光体は偽造防止用顔料として、また田原市の赤羽根で赤色のハヌスが増えてきたように植物用光源となり、発光する原理を

0という数字を知つていますか」と問い合わせ、社会のあらゆる分野において、20年までに、指導的地位に女性が占める割合が30%になるよう取り組んでいる目



中野裕美氏

ります」と力を入れて「います」と力を込め

標ごとに説明した。

・高齢者の活用など、企業のほうが、経営指標が良い傾向にあります」とキッパリ。

さらに昨年「女性活躍推進法」が施行されました。女性が多くの科学者が血眼になっています」と専門的な内容を丁寧にわかりやすく話を展開。

豊橋技科大で男女共同参画室長を務める中野氏は「ダイバーシティ社会についても「2020年

時代に外国人や女性役員比率が高い

、「女性を生かすダイバーシティ経営」をアピールした。

サロンでは原子力発電環境整備機構理事の伊藤眞一氏も「高レベル放射性廃棄物の最終処分について」スピーチした。

（伊藤秀昭）